

Management Club Report

Apr.2024/Vol.256

Monthly Opinion 《期待は創造し提供するもの》

ここ何回か続けてMCレポートに書いて参りましたテーマは『美意識』という言葉に代表される『感性の重要性』についてでした。歯科医療は自然科学の領域に存在しますので、感性というよりも、理性や合理性から導かれる“正解”に基づいた研究が進められ発展してきた学問であり科学であり医療活動です。従いまして、個人の感性に基づいての判断という考え方には中々馴染めないものがあるかもしれません。

私は、もちろん歯科医療の原点は理性や合理性によって導かれる“正解”を追求するものであることに異論はありませんが、一方、『美意識』という感性は、歯を治し、歯を白くし、歯並びを整え、口臭を無くす役割を担う歯科医療には不可欠な意識であるとも確信いたしますし、更に歯科医院という複数の人間が集まる組織運営面においても無くてはならない感性であると考えています。

更に加えて、科学によって導き出された“正解”がすべての歯科医院で提供されている現状を顧みれば、より良い歯科治療を望む患者や、定期健診通院者にとってその歯科医院で『美意識』をふとした時に感じ取ることができるかどうかは、極めて大きな期待感に結びつくことになるのではないのでしょうか。

そのようなことを突き詰めて考えていきますと、今まで25年間にわたって本レポートやセミナー等で力説してきた『真実の瞬間』や『歯科医療の真価』、引用してきた様々な名言、また、院内研修での指導内容の全てが一本の線で繋がっていることが見えてきたのです。目の前が明るくなったように感じました。そのような気持ちでこれまでを振り返りながら、新たな気づきとの接点を結んでみたいと思います。

1

歯科医院に不可欠な“美意識”

『評価の関所』を超える要点は“美意識”にあり

整った歯並びの美しさ、輝いて見える白い歯の美しさ、口臭を感じさせない爽やかさ、会話を交わしている相手にこの3拍子が揃っていたならば、自ずと好感を抱く割合が高くなるでしょう。

院内研修やセミナーなどで『評価の関所』という対人関係上重要なポイントとすべき考え方があります。自分が信頼に値する人間であることを相手に理解してもらうためには、自分が評価される3つの『関所』を越えなければならないことを伝えているのですが、第一の関所というのが『外見』と言われています。